

新宿中央公園 魅力向上推進プラン

平成29(2017)年9月
新宿区



目 次

第1章 計画の基本的事項 1

- 1 計画の目的 1
- 2 計画の対象地 1
- 3 計画の位置付け 3
- 4 目標とする計画期間 3
- 5 計画の構成 3

第2章 新宿中央公園の概況 4

- 1 新宿中央公園の歴史 4
- 2 新宿中央公園を取り巻く状況 7
- 3 利用者に対する意識調査 11
- 4 新宿駅周辺地域のまちづくりについて 15

第3章 魅力向上推進プラン 16

- 1 新宿中央公園の将来像 16
- 2 将来像の実現に向けた基本的考え方 16
 - (1) ひ と：多様なニーズの利用者が満足し交流できる公園づくり 17
 - (2) ま ち：西新宿のまちを取り込んだ魅力ある公園づくり 19
 - (3) みどり：区立公園最大のみどりを活かした公園づくり 21
 - (4) しくみ：様々な担い手による人間味あふれる公園づくり 23
- 3 将来像の実現に向けた公園の空間構成 25
- 4 空間別展開イメージ 27
 - (1) 取り組み展開にあたっての視点 27
 - (2) 空間ごとの取り組みの展開例 28
- 5 計画の実現に向けて 36



第1章 計画の基本的事項

1 計画の目的

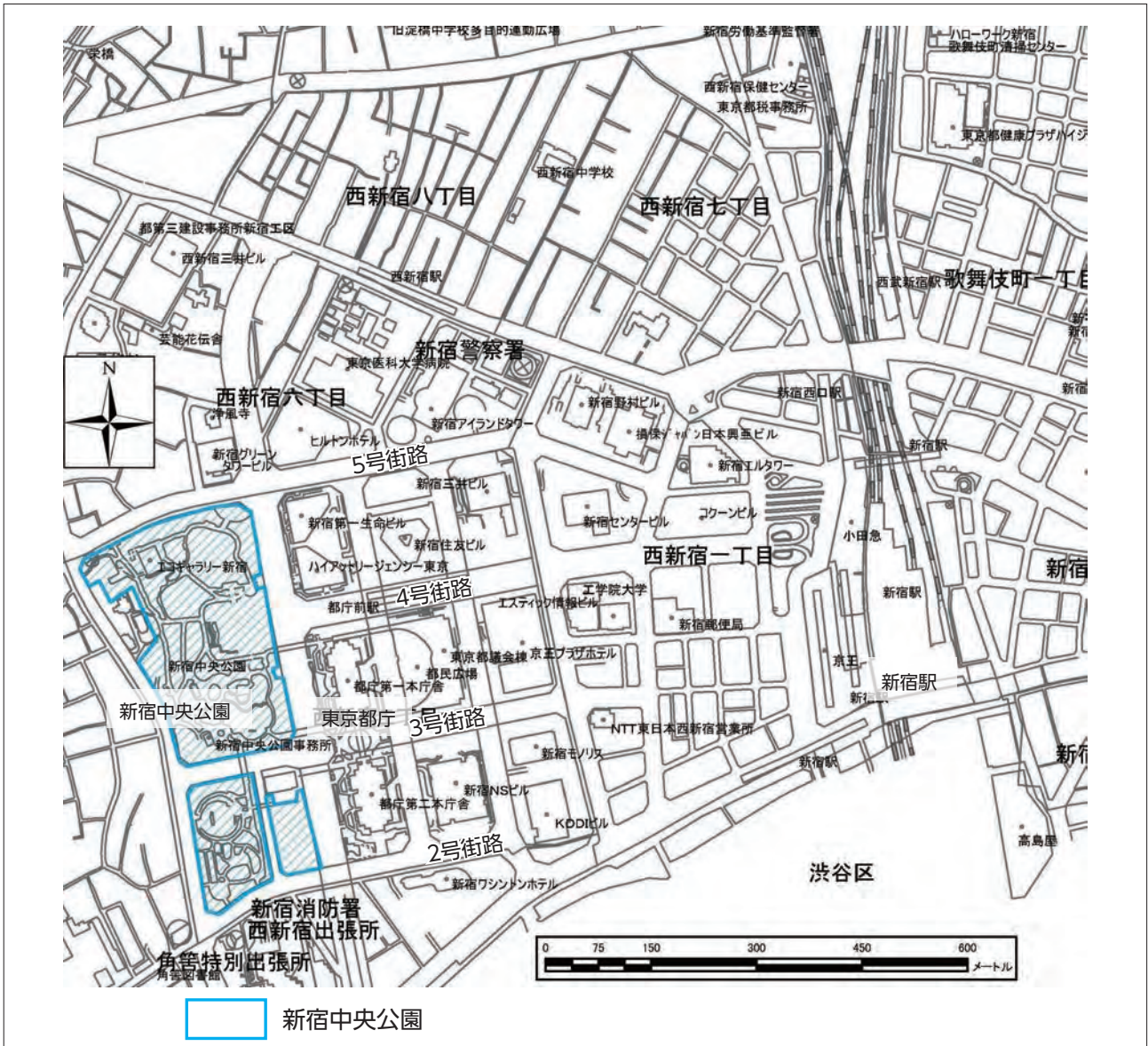
本計画は、新宿区立公園最大の面積を誇る新宿中央公園について、公園の特色や西新宿をはじめとした新宿駅周辺地域の魅力を十分に活かし、憩いと賑わいのある誰もが足を運びたくなる公園としていくため、策定するものである。

2 計画の対象地

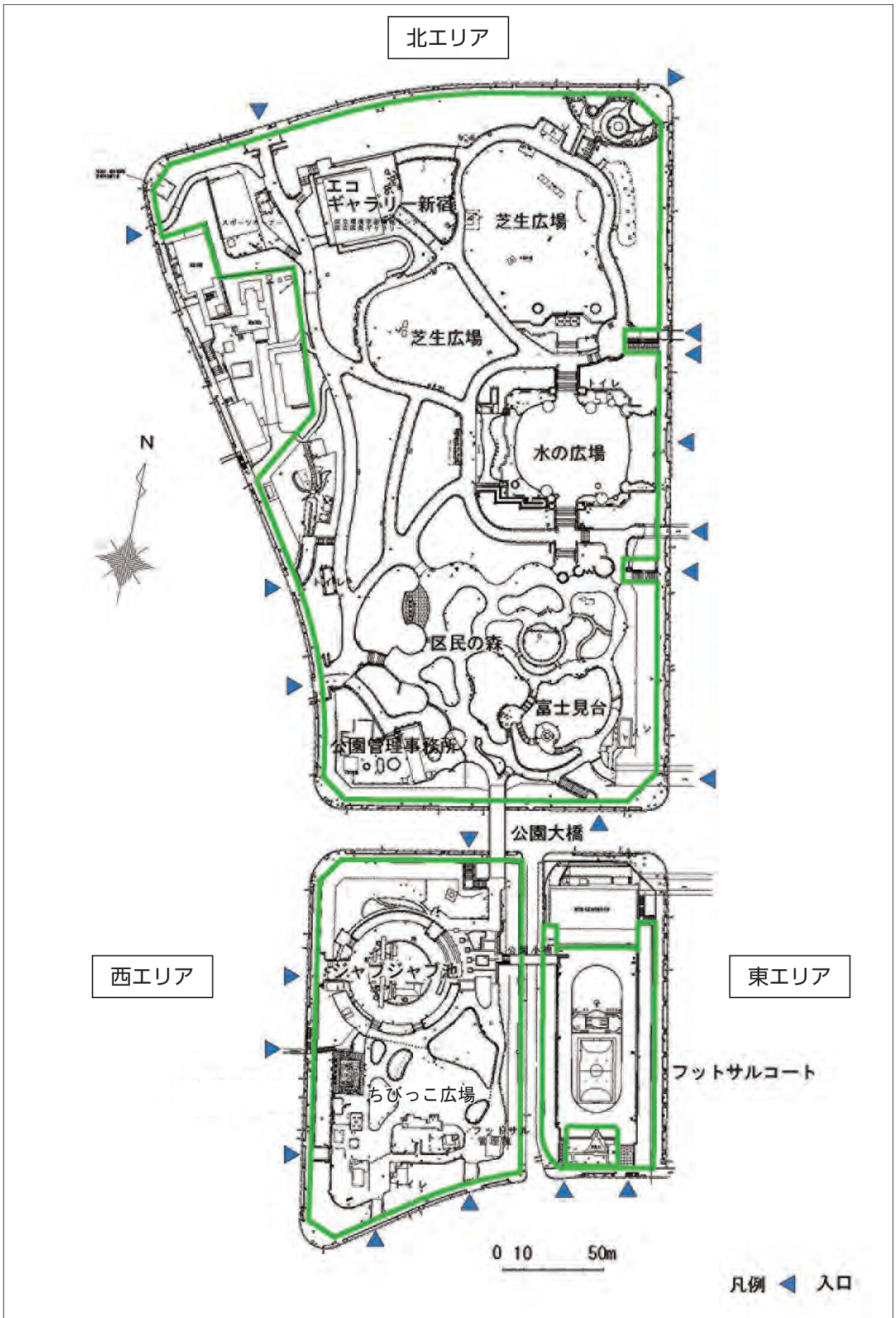
本計画の対象地は以下のとおりである。

対象区域：東京都新宿区西新宿二丁目11番 新宿中央公園

対象面積：88,065.95㎡



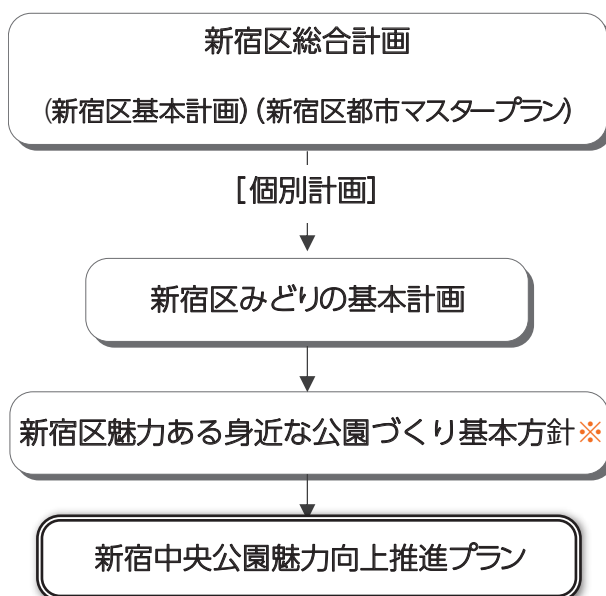
案内図



新宿中央公園平面図

3 計画の位置付け

本計画は、「新宿区総合計画」において、将来の都市構造として位置付けられている「七つの都市の森」の一つである「新宿中央公園周辺」の充実を図るため、「新宿区みどりの基本計画（平成21年2月改定）」及び「新宿区魅力ある身近な公園づくり基本方針（平成22年3月策定）※」に基づき、新宿中央公園において、様々な利用ニーズへの対応や多彩なみどりを創出することで公園の魅力向上を図るものである。



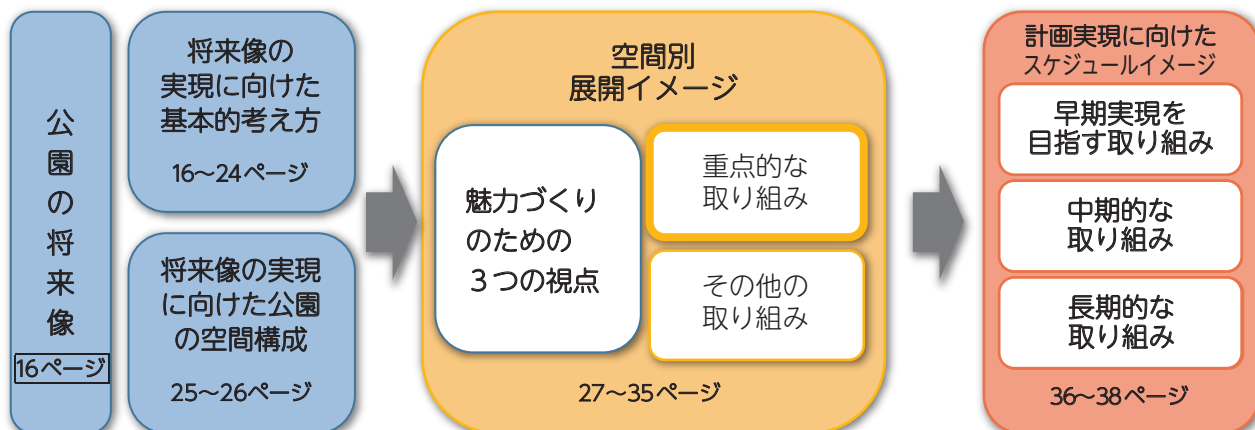
※同方針については、都市緑地法の改正により「みどりの基本計画」が「公園の整備及び管理に関する総合的な計画」に位置付けられたことから、平成30年3月に改定する「新宿区みどりの基本計画」に統合します。

4 目標とする計画期間

本計画は、2017年度から概ね20年後の新宿中央公園の将来像を示し、その実現を目指して策定するものである。

5 計画の構成

この計画の構成は次のとおりとする。





第2章 新宿中央公園の概況

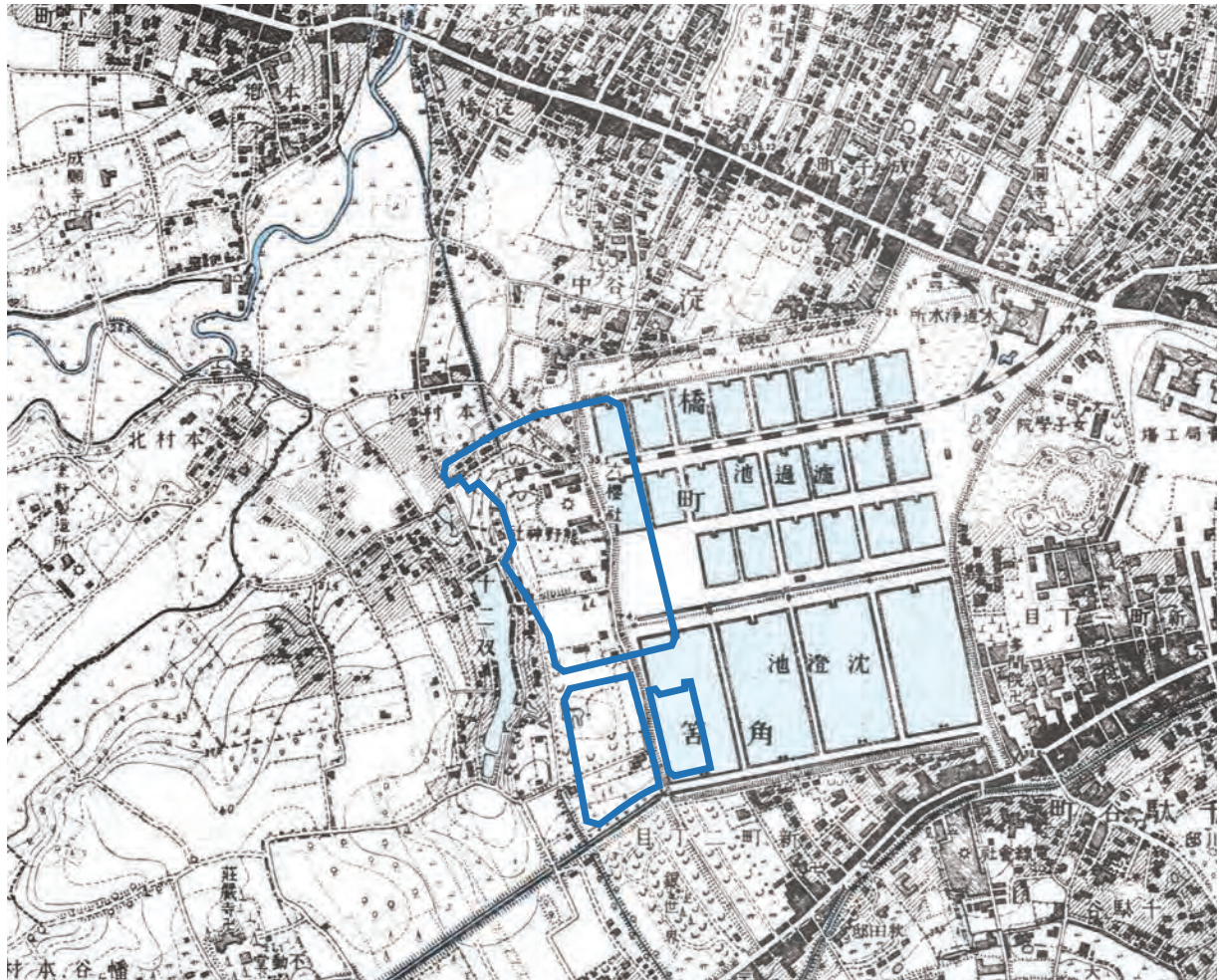
1 新宿中央公園の歴史

(1) 公園誕生までの歴史

現在の新宿中央公園の辺りは、江戸時代には角筈村の田畑が広がっており、公園の東側付近には、諸大名や旗本の武家屋敷が集まっていた。

明治31年に、玉川上水を原水とする淀橋浄水場がつくられ、近代水道が東京に誕生した。昭和40年にこの浄水場は廃止され、跡地の再開発計画として新宿副都心計画がスタートする。新宿中央公園は、副都心計画の一環としてつくられたものであり、昭和43年に東京都の公園として開園した。

昭和50年に公園は新宿区に移管され、その後、全面的な改造工事が行われ、ほぼ現在の公園の姿となった。



明治時代の西新宿

 現在の新宿中央公園の範囲

「地図で見る新宿区の移り変わり（淀橋・大久保編）/新宿区教育委員会」を加工して作成

(2) 公園の変遷

1 開園当時の公園（昭和43年）

【コンセプト】

- 新宿副都心の中の公園として、様々な利用目的に対応できる大小の広場を配置した明るい公園とし、浄水場跡地を記念するため、水を利用した施設を設ける。
- 公園の樹木は、高木を植栽しつつ、外周街路からも園内が見通せるような配植とする。
- 新宿駅から公園に向かう4号街路からの見通しを考慮する。



出典：新宿中央公園造成工事の概要／(財)新宿副都心建設公社

2 新宿区移管後の全面改造（昭和55年～昭和58年）

【改造の基本方針】

- 多様なレクリエーションの場を拡充する。
- 災害時の避難場所となる広場をつくる。
- 緑に囲まれた空間を確保する。
- 周辺住民のための利用スペースを確保する。
- 利用者をひきつける魅力をもった公園とする。
- 老朽施設を改修する。

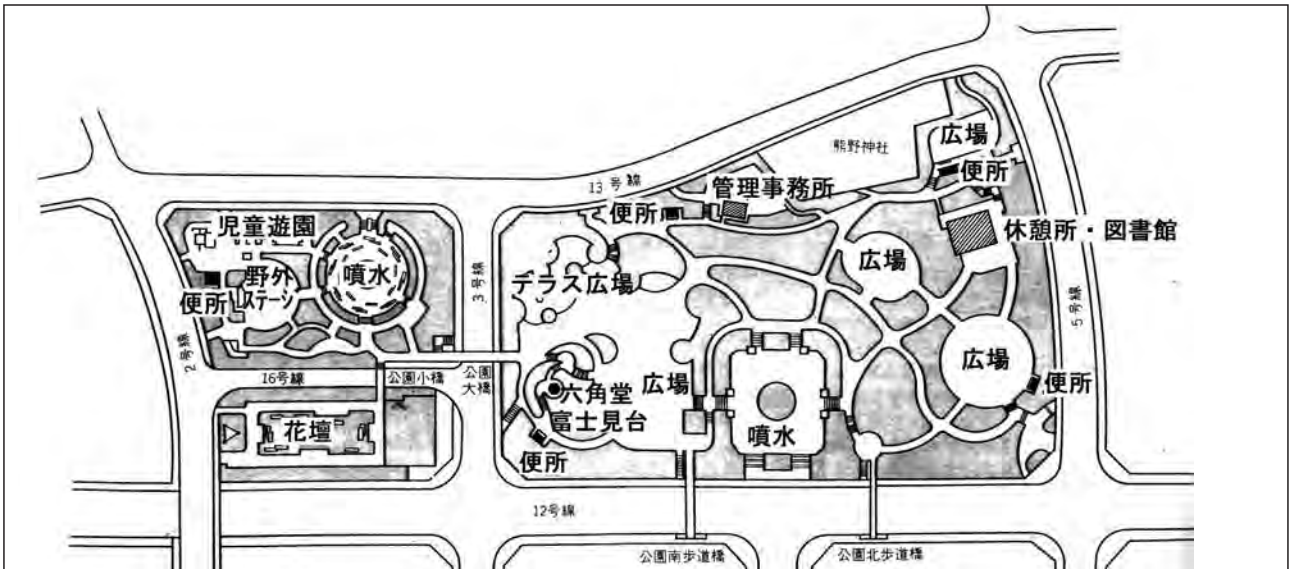
この基本方針に基づき、水の広場・芝生広場・区民の森・ちびっこ広場・多目的運動広場・スポーツコーナーなどを整備し、ほぼ現在の公園の姿となった。

3 その後の主な整備等

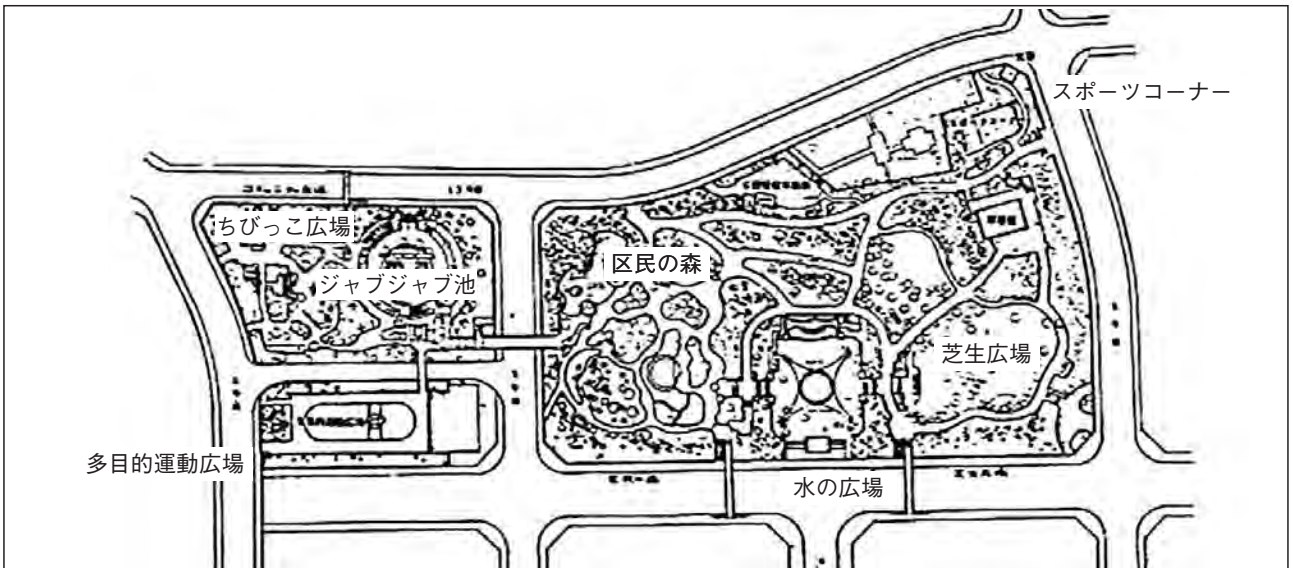
- 管理事務所の移設(平成7年度)
(東京都下水道局第22社幹線工事に伴い実施)
- 水の広場改修(平成9年度)
(都営大江戸線の建設工事に伴い実施)
- ビオトープの新設(平成14年度)
- 花時計の設置(平成18年度)
- 指定管理者制度の導入(平成25年度から)
- フットサルコート の設置 (平成26年度)



フットサルコート



開園当時の平面図（昭和44年11月）



全面改造工事後の平面図（昭和59年3月）

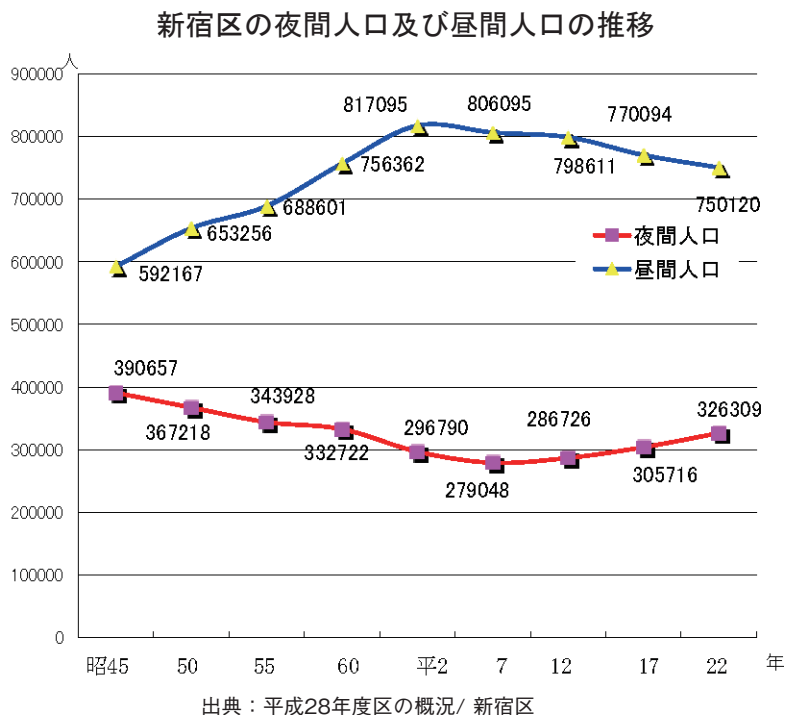


現況平面図（平成28年12月現在）

2 新宿中央公園を取り巻く状況

(1) 新宿区の人口

我が国では出生率の低下により人口減少が続いているが、新宿区では住民の都心回帰の傾向から、夜間人口はやや増加している。一方、昼間人口は近年減少傾向であるが、現在でも夜間人口の2倍以上となっている。



(2) 多様な都市機能と魅力が集積したまち

新宿駅周辺地域は、世界一の乗降客数を誇る新宿駅を中心に、都内屈指の商業・娯楽・業務・滞在機能と、充実した居住・公園機能が近接して集積しており、他の都市にはない特長となっている。また、同地域は、国から「緊急かつ重点的に市街地の整備を推進すべき地域（都市再生緊急整備地域）」として指定されており、東京の発展を先導していく重要な役割を担っている。



- 主な大型小売店舗
- 主な大規模オフィス
- 主なシティホテル
- 近年竣工または竣工予定の高層集合住宅
- 大規模な公園

出典：新宿駅周辺地域まちづくりガイドライン/
新宿区

新宿駅周辺の主要な施設



(3) 公園の役割の多様化

人々のライフスタイルや価値観の多様化に伴い、公園のニーズも多様化・高度化しており、全国各地で、公園内にカフェやレストランなどを設置する例が増えてきている。中には、水族館といった大規模な施設を設置する事例も登場している。

また、近年、様々な自治体が、住民・NPO・企業等と連携した公園の管理運営に取り組んでおり、新宿区においても、新宿中央公園にて、平成25年度から指定管理者制度を導入し、公園の賑わいづくりを進めている。



公園内のカフェ・レストラン（駒沢オリンピック公園）

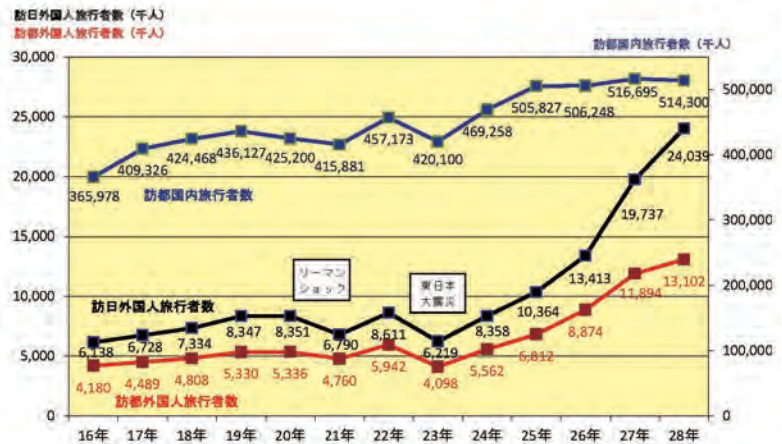


公園内の水族館（梅小路公園/京都市）

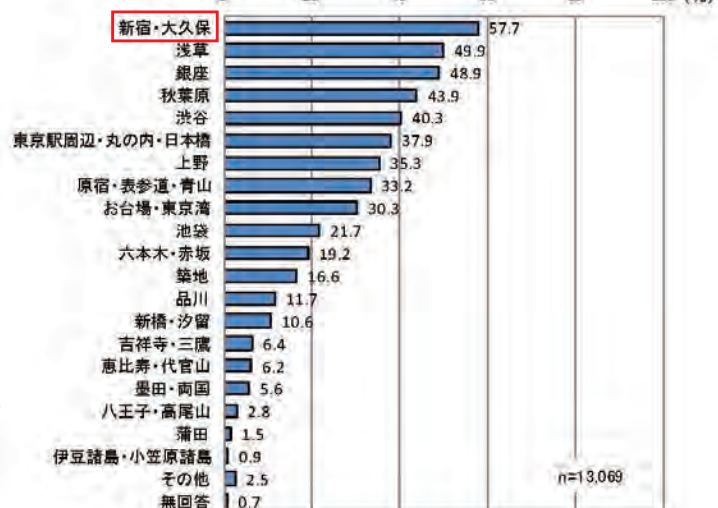
(4) 外国人旅行者の増加

日本を訪れる外国人旅行者数は、平成23年以降年々増加している。

平成28年度は過去最多の約2,400万人が訪れ、そのうち東京都には約1,310万人が訪れている。平成27年度に東京都が実施した「国別外国人旅行者行動特性調査」では、都内の訪問場所として「新宿・大久保」がトップとなっており、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会開催に向けて、新宿エリアへの外国人旅行者はさらに増加することが予想される。



外国人旅行者の推移 出典：東京都観光客数等実態調査/東京都産業労働局



外国人旅行者が訪問した場所（複数回答）

出典：国別外国人旅行者行動特性調査/
東京都産業労働局

(5) 歴史が息づく地域の身近な公園

新宿中央公園を含む一帯には、かつて淀橋浄水場があり、現在でも園内には、浄水場時代の施設である六角堂や、浄水場跡地を記念して整備した大規模な水施設（滝）などがあり、地域の歴史が息づく公園となっている。

さらに、新宿中央公園は地域住民に愛され親しまれている公園でもある。水の広場では、盆踊りやラジオ体操などが行われており、たくさんの遊具があるちびっこ広場は、いつも大勢の子どもたちで賑わっている。また、「新宿中央公園を守る会」をはじめとした、様々な方々によるサポーター活動（ボランティア）が盛んに行われている。



新宿ナイアガラの滝

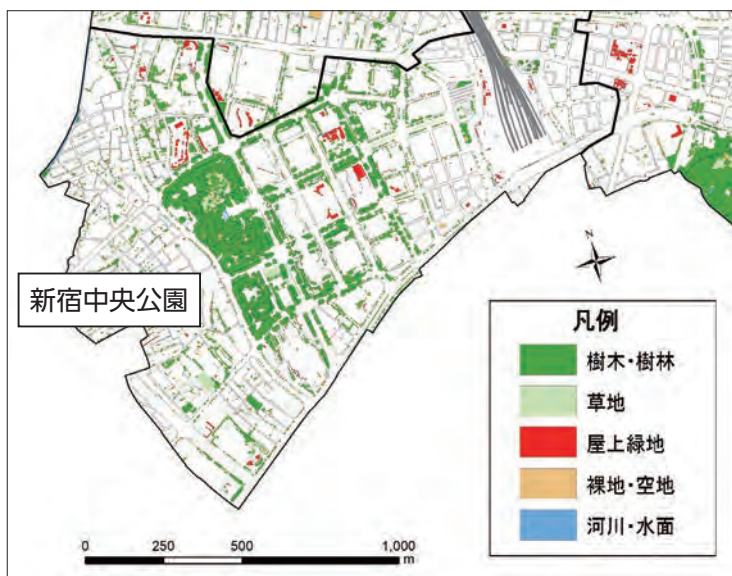


新宿中央公園の夏祭り

(6) 豊かな緑の空間と抱える課題

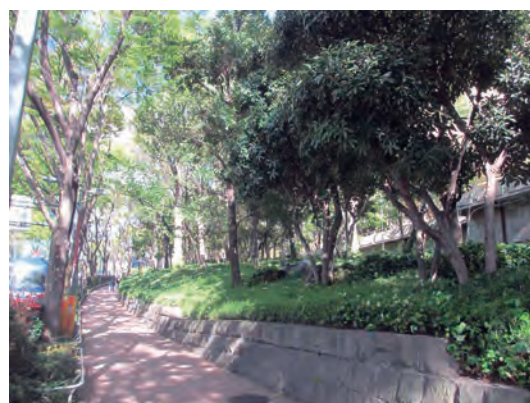
新宿中央公園は、新宿区立公園としては最大のまとまったみどりを有している。また、公園のみどりは、西新宿の高層ビルや周辺道路のみどりと一体となって、お互いに魅力を引き立てあい、新宿の特長的な景観を形づくっており、テレビや映画などの撮影場所としても人気が高い。

一方で、開園当初に植栽した多数の樹木が生長して大きくなった結果、枝が重なり合い、鬱蒼となった場所もある。このため、公園が全体的に暗い印象になるとともに、周辺道路から園内を見通すことが難しく、また、植込み地の日当たりも悪くなったため、草花が育ちにくい状況となっている。



緑被分布図

「新宿区みどりの実態調査報告書（第8次）/新宿区」を加工して作成



樹木が密集している公園の外周部分
(右側が新宿中央公園)



(7) 公園へのアクセス

新宿中央公園の周囲は全て広幅員道路に囲まれている。このため、公園を利用するためには、横断歩道か歩道橋を渡る必要があり、アクセス経路が限定されている。特に、新宿駅から公園に向かう4号街路からのアクセス経路は、歩道橋のみとなっており、バリアフリー性や利便性の向上が課題となっている。

また、周辺道路と公園の敷地には高低差があり、公園側が高いため、道路からは公園の中の様子が分かりにくく、来訪者を誘引しにくい。



横断歩道が設置されていない水の広場前の道路
(右側が新宿中央公園)

(8) 公園施設の老朽化

昭和55年から58年にかけて行った改造工事以降、部分的な補修やリニューアルは行ってきたが、遊具をはじめとした公園施設の老朽化が進んでいる。



老朽化した遊具
(平成29年3月に撤去)

3 利用者に対する意識調査

(1) 新宿区区民意識調査

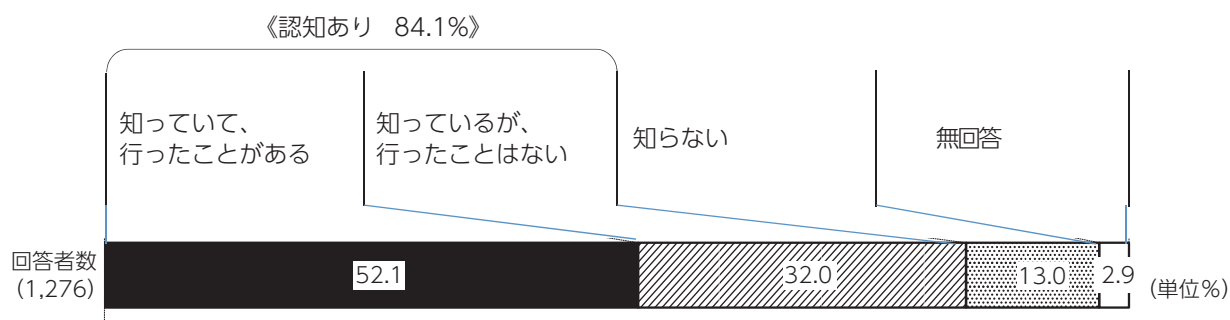
新宿区では、区民の意向・要望等を把握し、今後の区政運営に反映させるための基礎資料とするため、区民意識調査を行っており、平成28年度は、新宿中央公園の「認知度」「利用目的」「魅力ある公園とするために必要と思うこと」などについて調査を行った。

新宿中央公園の認知度については、「知っている、行ったことがある」が52.1%で最も高く、「知っているが、行ったことはない」とあわせた《認知あり》は8割を超える。

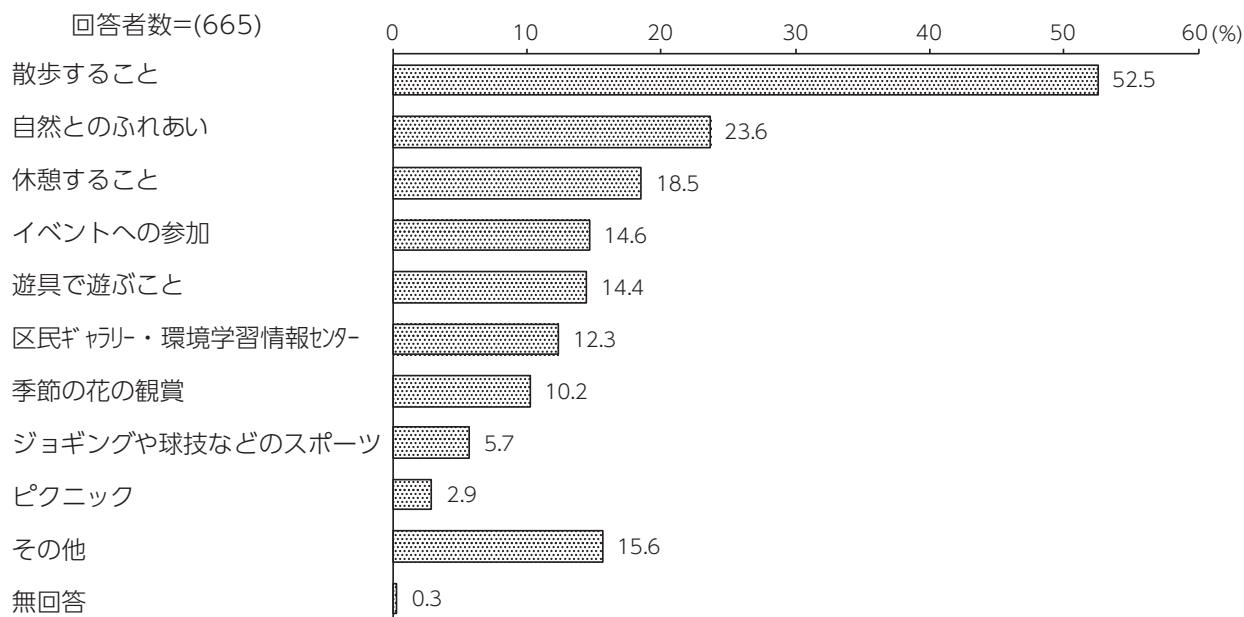
さらに、「知っている、行ったことがある」と回答した人に新宿中央公園へ行った目的をたずねたところ、「散歩すること」が52.5%で最も高く、次いで「自然とのふれあい」が23.6%「休憩すること」が18.5%であった。

新宿中央公園をさらに魅力ある公園とするために必要と思うことについては、「清潔できれいな園内環境」が63.3%で最も高く、次いで「自然を感じられるエリアの拡大」、「休憩・休息スペースの拡大」、「カフェ、レストラン等の飲食施設の設置」となっている。

● 新宿中央公園の認知度

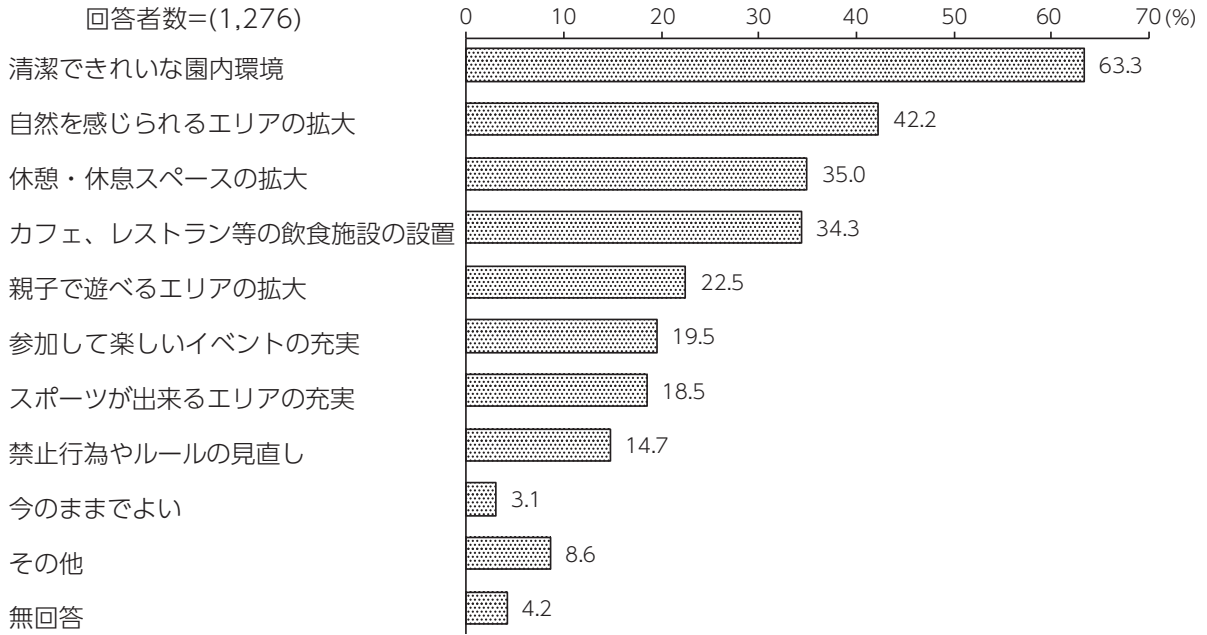


● 新宿中央公園へ行った目的 (知っている、行ったことがある人のみ回答・複数回答)





● 新宿中央公園をさらに魅力ある公園とするために必要と思うこと（複数回答）



(2) 来園者意識調査

平成28年度に、新宿中央公園の来園者に対し、新宿中央公園に対する「利用頻度」「イメージ」「求める役割」などについて意識調査を行った。調査は10月の平日と休日、それぞれ1日ずつ行い、各日200件、合計400件の意見を集めた。

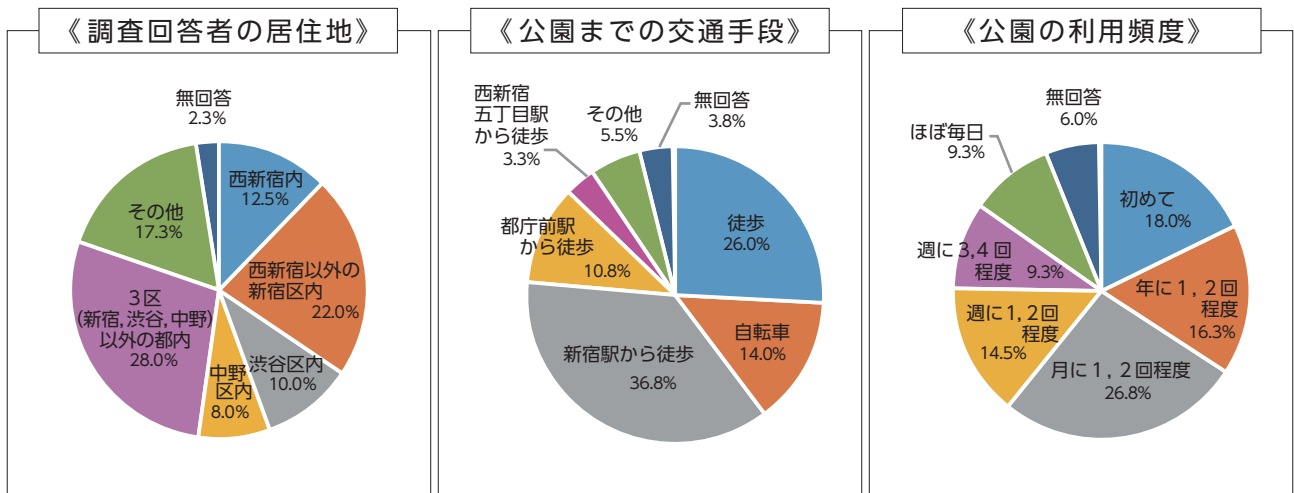
回答者の居住地をたずねたところ、新宿区内居住者が34.5%であり、区外居住者の割合の方が多かった。また、都外居住の来園者（「その他」に分類）も2割近くいた。

公園までの交通手段については、徒歩や自転車で来園した人が40.0%である一方、半数以上の人が鉄道を利用して来園しており、新宿駅を利用した人も36.8%いた。

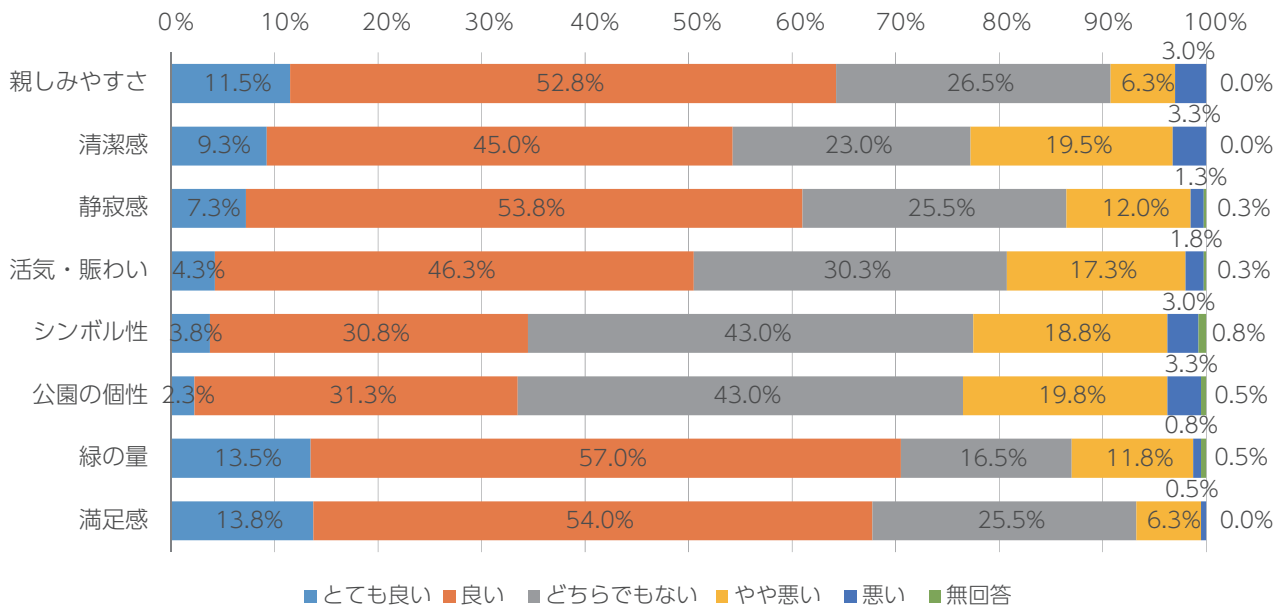
利用頻度については、月に1、2回程度利用する人が26.8%と最も多く、次いで初めて利用する人が18.0%となっている。

新宿中央公園のイメージでは「緑の量」「親しみやすさ」「満足感」などの項目について評価が高く、「シンボル性」「公園の個性」の評価は低い結果となった。

新宿中央公園に求める役割については「日常的な休息・安らぎの場」「子どもたちが安全・安心に遊べる場」「地域住民のレクリエーションの場」の順になっている。

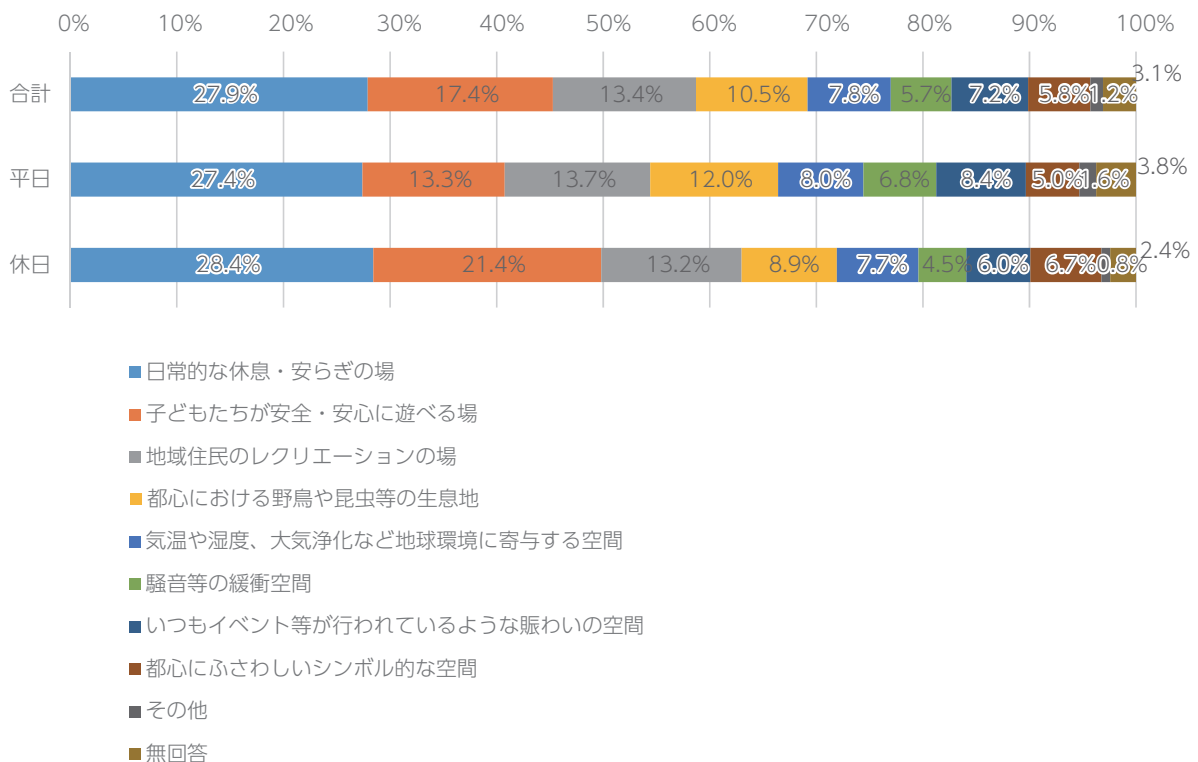


● 公園のイメージ



● 新宿中央公園に求める役割（※上位3つを選択）

（各回答を1位=3点、2位=2点、3位=1点とし、その点数を合計した数値を比較したもの）



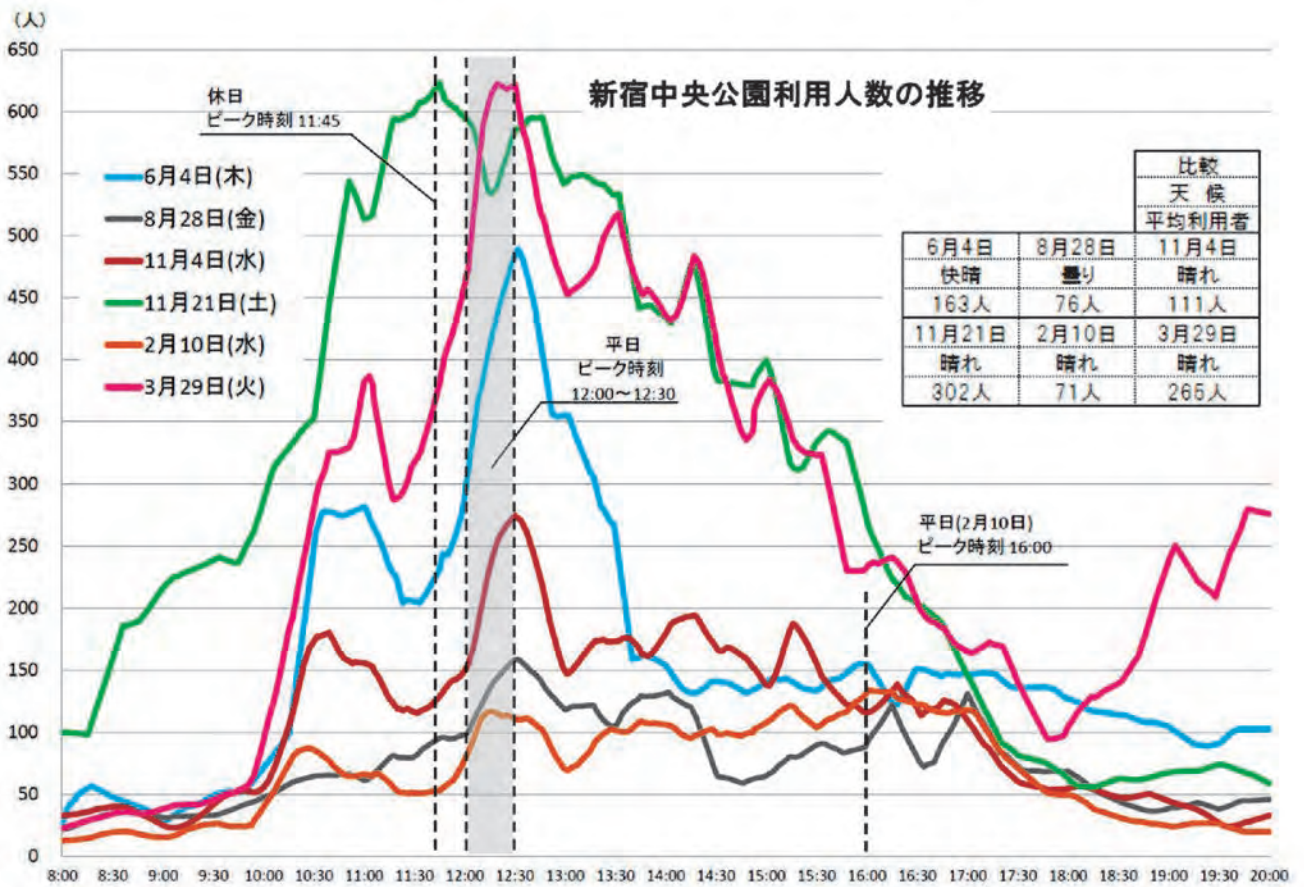


(3) 新宿中央公園利用者実態調査

新宿中央公園の時間ごと及び場所ごとの利用人数の推移等を調査するため、平成27年度に新宿中央公園の利用実態調査を行った。調査は6月から3月にかけて6回（四半期ごとの平日各1回、花見期1回、休日1回【11月21日(土)：園内にてイベント開催】）行い、時間は午前8時から午後8時までの12時間とした。

調査の結果、平日は、昼食時の12時から12時30分頃にかけてが来園者のピークとなっている。また、午前10時から11時頃にかけて保育園の園児等が集団で公園に遊びに来るため、来園者が増加する傾向がある。一方、休日は午前中から来園者が多い。3月は、夜桜を見るため、夜間の来園者が多かった。

● 時間別利用人数の推移



4 新宿駅周辺地域のまちづくりについて

新宿中央公園が位置している新宿駅周辺地域には、「新宿駅」を囲むように、西新宿超高層ビル地区や、新宿駅東口地区、歌舞伎町地区など、個性を持った多様なまちが存在している。

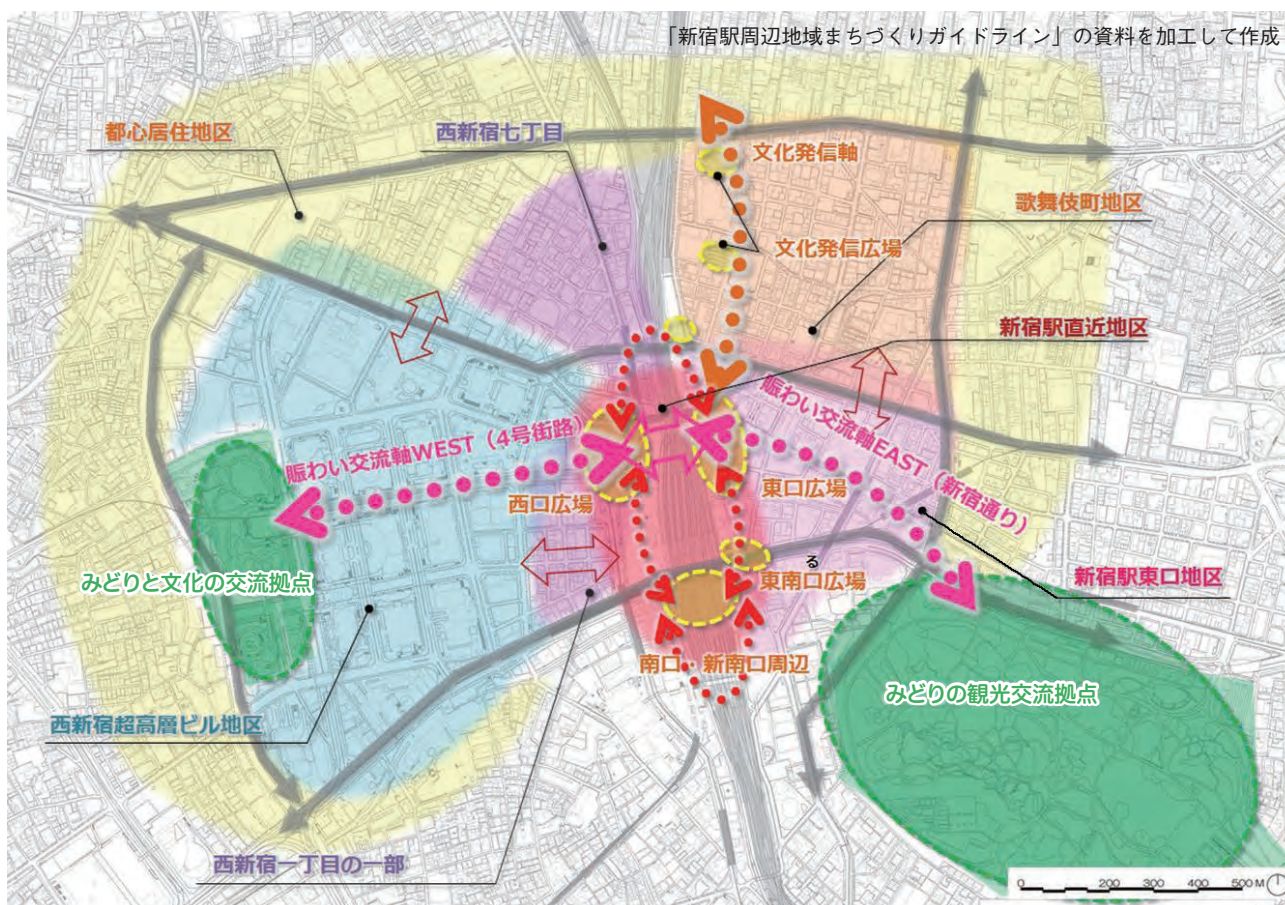
そこで、新宿区は、新宿駅周辺地域全体のまちの目指すべき将来像と、それを実現していくための戦略・方策を定め、各地区が特色を活かしながら連携してまちづくりを進め、相乗効果を発揮していくための指針として、平成28年3月に「新宿駅周辺地域まちづくりガイドライン」を策定した。

また、東京都と新宿区にて、長期的・広域的な視点から新宿の拠点づくりに取り組むため、平成29年6月に「新宿の新たなまちづくり～2040年代の新宿の拠点づくり～」を策定した。

新宿区駅周辺地域まちづくりガイドライン (平成28年3月策定 新宿区)

《20年後（2035年）をイメージした新宿駅周辺地域の目指す将来像》

世界に注目され、誰もが自由に行き交う国際集客都市 ～世界と日本をつなぐ快遊都市へ～



新宿の新たなまちづくり～2040年代の新宿の拠点づくり～

(平成29年6月策定 東京都・新宿区)

《2040年代を見据えた新宿駅周辺地域の将来像》

国内外の人・モノ・情報が集まり、交わり、刺激し合い、さらなる魅力や新たな価値を持続的に創出し続ける「国際交流都市・新宿」～「交流・連携・挑戦」が生まれる人中心のまちへ～



第3章 魅力向上推進プラン

1 新宿中央公園の将来像

だれもが誇りと愛着をもてる 「憩い」と「賑わい」のセントラルパーク

新宿中央公園は、その立地環境から、居住者・就業者・来街者など様々な人が利用する公園である。また、規模の大きさから区内の公園の「中心」となる機能を持つ新宿のシンボルとなる公園であり、さらには、西新宿のまちの「中央」に位置する広大なみどりの空間でもある。

よって、「憩い」から「賑わい」まで、様々な人々の多様な利用ニーズに応えることができる「セントラルパーク」として、だれもが誇りと愛着を持って利用できる公園、そしてみんなで育てていく公園となることを目指していく。

2 将来像の実現に向けた基本的考え方

新宿中央公園の将来像の実現に向けて、「ひと」「まち」「みどり」「しくみ」の4つの観点に基づく基本的な考え方を定め、今後の施策の方向性を示していく。

ひと 多様なニーズの利用者が満足し交流できる公園づくり

居住者・就業者・来街者それぞれが、楽しく快適に過ごし、交流できる空間を提供し、多様な利用ニーズに対応していく。

まち 西新宿のまちを取り込んだ魅力ある公園づくり

周辺の街路やオープンスペース等と連携を図りながら、まち全体で魅力ある空間づくりを進めることで、公園やまちの価値を高めていく。

みどり 区立公園最大のみどりを活かした公園づくり

魅力ある多彩なみどりの空間をつくり、様々な活用を図っていく。

しくみ 様々な担い手による人間味あふれる公園づくり

様々な担い手と連携した公園づくりを進め、魅力ある公園の実現を目指していく。

(1) ひと：多様なニーズの利用者が満足し交流できる公園づくり

1 様々なニーズを受けとめ、新たなライフスタイルの創造につなげる

「居住者」「就業者」「来街者」などによる様々な利用を受けとめるとともに、新たなライフスタイルやワークスタイルの創造につながる多様で多彩な空間づくりやしきみづくりを行っていく。

区民意識調査では、清潔できれいな園内環境、自然を感じられるエリアの拡大、休憩・木登りをする子どもたち、木登りをする子どもたち、休息スペースの拡大、飲食施設の設置といった意見が上位にある。

こうした区民要望を踏まえ、多彩なみどりとふれあえる美しい空間づくりや、民間活力を利用したカフェ・レストランなどの導入を進めるとともに、イベント等による公園の積極的な活用を図り、憩いや賑わいづくりに取り組んでいく。



木登りをする子どもたち

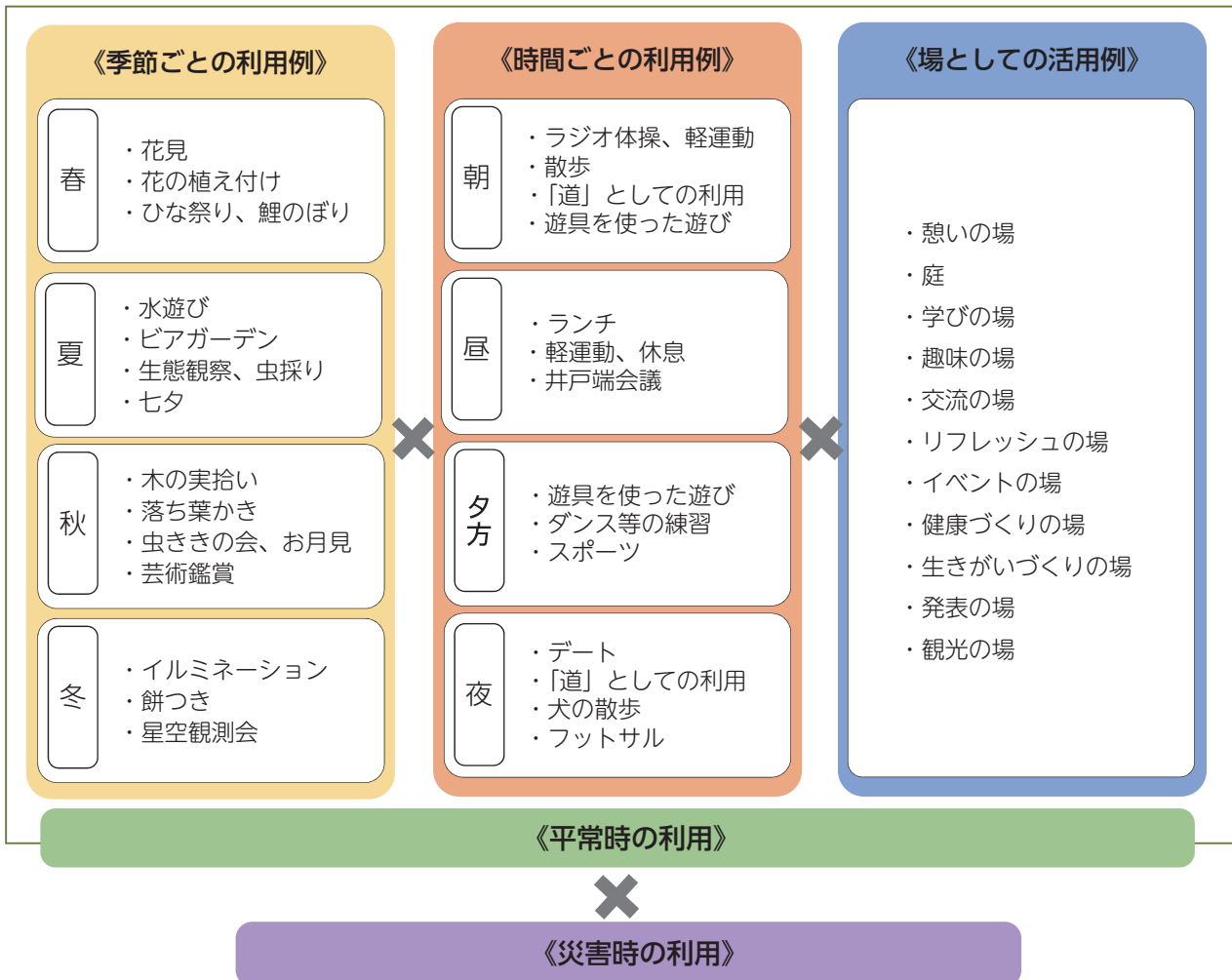


飲食施設（上野恩賜公園）



けやきの木の下でくつろぐ人々

多様な活用イメージ





2 いつでも安全・安心に利用できる公園とする

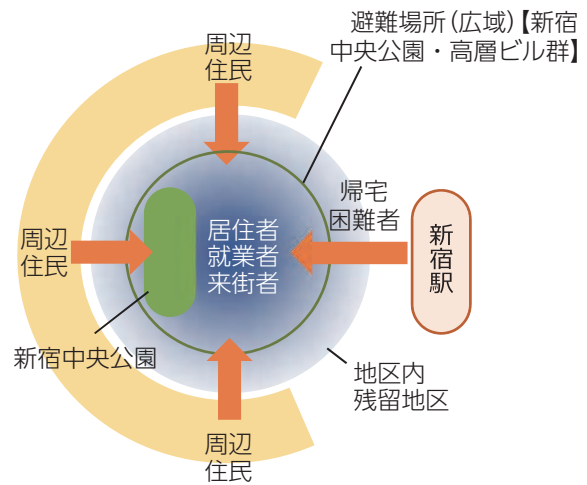
周辺からの園内の見通しを確保する、園内の死角をなくす、主要動線上の夜間の明るさを確保するなど、防犯面に配慮した、安全・安心な環境づくりを行う。

また、新宿中央公園・高層ビル群一帯は、地震等によって万が一火災が発生しても大規模な延焼火災の恐れがなく、広域的な避難を要しない区域として「地区内残留地区」に指定されている。

さらに、同一帯の一部が西新宿四丁目などの周辺地域の避難場所となっている。

よって、今後も避難場所としての機能強化を図っていく。

《災害時における新宿中央公園の役割》



3 誰もが利用しやすい公園としてユニバーサルデザインの強化を図る

主要なエントランスからのバリアフリー経路を確保するとともに、園内の小さな段差の解消を図るなど、ユニバーサルデザインに配慮していく。さらに、外国人の利用が多い公園であることから、サインの充実を図るほか、人による応対に加えて、ICT（インフォメーション・コミュニケーション・テクノロジー）の活用などを行う。さらに多様なコミュニケーションツールを活用した情報発信を積極的に行い、イベント開催のPRなどで公園の魅力を伝え、多くの人を呼び込む方策を展開する。

4 「地域の庭」としての機能を高める

新宿中央公園は、地域の身近な公園としての役割も大きく、近所の保育園児や親子連れ、ペットと散歩する人、ジョギングや体操をする人など、地域の人たちが気軽に利用できる空間となっている。

このような「地域の庭」として、また、様々な利用者同士の「交流の場」としての機能を高めていく。



ちびっこ広場でピクニックを楽しむ親子連れ

5 公園施設を効果的に活用して、魅力を高める

ジャブジャブ池のように、利用時期が限られている公園施設について、年間を通して、様々な演出・活用を図ることで、公園の魅力を高めていく。



夏季のジャブジャブ池



シーズンオフ期間は閉鎖中のジャブジャブ池

(2) まち：西新宿のまちを取り込んだ魅力ある公園づくり

1 周辺施設と連携してまちに回遊性を生み出す

新宿中央公園の周辺には、都庁の展望室、美術館、宿泊施設といった様々な文化・観光施設が存在している。また、建物の大規模な公開空地や緑豊かな街路といった基盤も整っている。

こうした空間的資源と公園とをネットワークとしてつなげ、連携や役割分担を図ることで相乗効果を発揮して、まちの魅力や回遊性を生み出していく。

また、新宿中央公園自体は、新宿駅周辺地域における「みどりと文化の交流拠点」として、みどりあふれるオアシスの中で、多くの人が憩い、楽しみ、交流する場としての機能を高めていく。



2 まちに開かれたエントランスとする

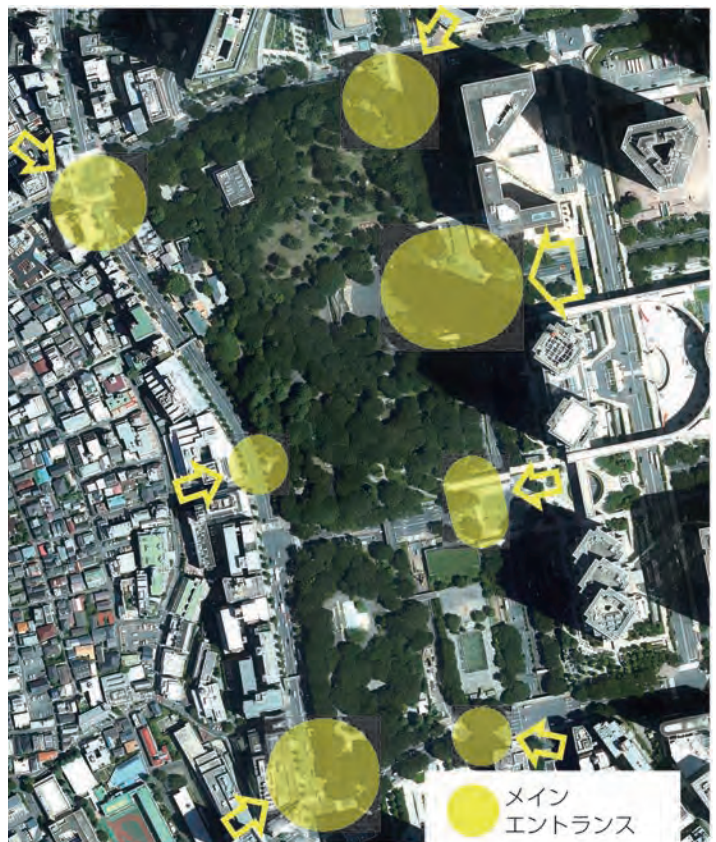
公園の歩行者動線やまちとのつながりを考慮した主要なエントランスを設定し、人を引き込む魅力のある空間とするとともに、アクセスの改善を図る。



現在の公園北東端のエントランス



西エリアの南西角付近の現況
(入口がないため、奥のちびっこ広場に
アクセスしづらい)



「新宿区みどりの実態調査報告書（第8次）/新宿区」を加工して作成



3 高層ビル群への眺望など、西新宿らしさが感じられる景観を生かす

新宿中央公園は、周辺の高層ビル群など西新宿の象徴的な景観を一望に眺めることができる、絶好のビューポイントを有する公園である。

このような特長を最大限に活かし、みどりと高層ビル群が融合した魅力的な都市景観を楽しむことができる空間づくりを進めていく。



芝生広場から望む超高層ビル



高層ビルの夜景を背景にした水の広場でのイベント

4 地域の歴史の記憶を継承する

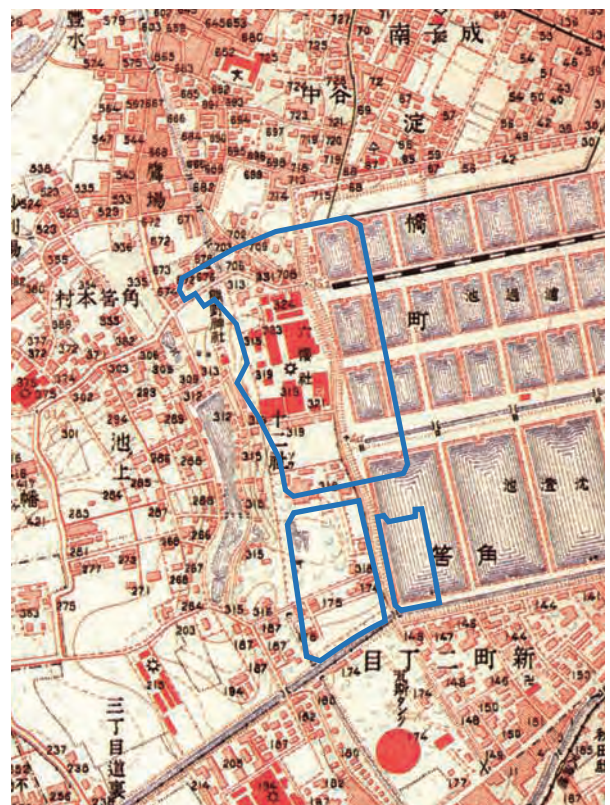
新宿中央公園一帯は、かつて淀橋浄水場や十二社池があった場所であり、公園に隣接する熊野神社には大きな滝があった。

公園内には、浄水場時代の施設である六角堂や、浄水場跡地を記念した大規模な水施設（滝）などがある。また、開園当時につくられた遊具などが、今も多くの人たちに親しまれている。

こうしたまちの歴史や記憶を活かし、次世代に継承していく公園づくりを進めていく。



動物遊具のある砂場（上）
と六角堂（右）
（開園当時の写真）



大正時代の地図

現在の新宿中央公園の範囲

「地図で見る新宿区の移り変わり（淀橋・大久保編） / 新宿区教育委員会」を加工して作成

出典：新宿中央公園造成工事の概要 / (財)新宿副都心建設公社

(3) みどり：区立公園最大のみどりを活かした公園づくり

1 多彩なみどりの空間をつくる

新宿中央公園は、新宿区立公園としては最大規模のみどりを有しており、自然豊かな公園として地域住民にも高く評価されている。一方で、樹木の生長に伴い、鬱蒼として暗い印象を与えている場所もある。

航空写真で見ると、新宿中央公園は、その大部分が樹木で覆われているのに対し、新宿御苑では、樹木の他に芝生の広場・庭園等を見ることができる。



(左)新宿御苑 (右) 新宿中央公園
「新宿区みどりの実態調査報告書(第8次)/新宿区」を加工して作成

そこで、エリアの利用形態や生物多様性などの観点から、多彩なみどりの空間を創出することとし、「樹冠による天空率」の多様化を図る。



※「天空率」とは、建築設計において、ある地点からどれだけ天空が見込まれるかを割合で示した指標により、建物形状を制限する概念であるが、ここでは、樹冠（樹木の枝や葉が覆い繁っている部分）に妨げられず、天空が見える割合を指す。



2 多彩なみどりを活用したレクリエーションを展開していく

新たに生まれる変化に富んだ多彩なみどりの空間において、「遊び」「賑わい」「憩い」「学習」など、それぞれの空間の特性を活かした様々な活用プランを展開していく。

また、これまであまり活用されていなかった夜間の公園において、自然を活かしたイルミネーションを実施するなど、利用度が低い時間帯や季節における公園の活用を図る。



ツリークライミング



どんぐり拾い



自然観察



芝生広場での休息

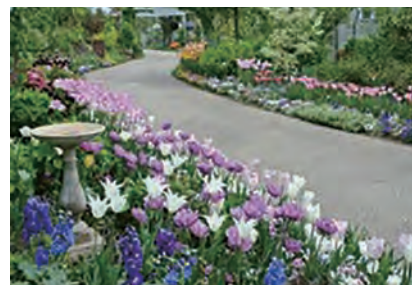


イルミネーション

3 四季を通じて魅力的な「花の名所」とする

新宿中央公園は、桜の季節は多くの人々が花見に訪れるが、それ以外の季節の花のイメージが薄い。そこで、太陽が地面まで降り注ぐ場所を意識的につくり、草花の植込みなどを行うことで、四季を通じて楽しめる「花の名所」をつくる。

また、現在取り組んでいる、公園サポーター等と協働した花壇管理のように、「地域の庭」としての意識を高め、愛着を持ってもらう取組みをより一層拡充していく。



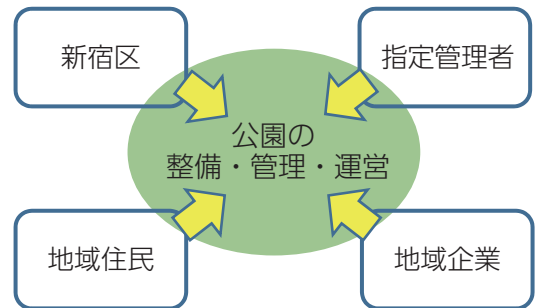
四季を通じて集客力のある高密度の連続した植栽を配置

(4) しくみ：様々な担い手による人間味あふれる公園づくり

1 様々な担い手による効果的な整備・管理・運営を行う

公園の魅力向上を持続的に図っていくには、新宿区だけでなく、指定管理者や地域住民、地域企業等、様々な担い手がそれぞれの特性を活かし、効果的に整備・管理・運営に関わることが重要となってくる。

こうした中で、公園の基盤となる施設（遊戯施設、給排水、電気設備等）の維持管理については、新宿区を主体に、効果的・効率的に実施していく。

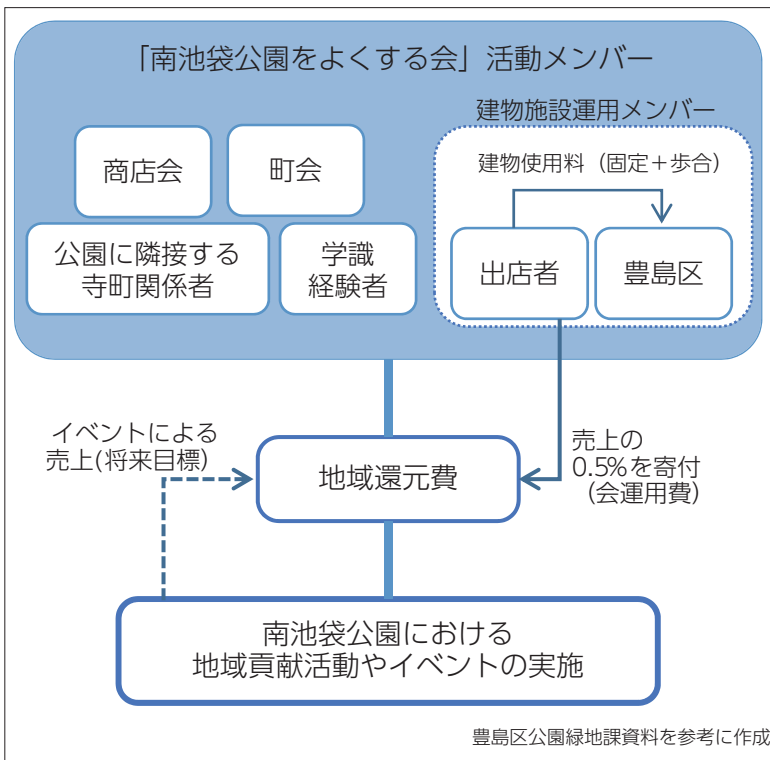


2 様々な担い手が連携した公園づくりの仕組みをつくる

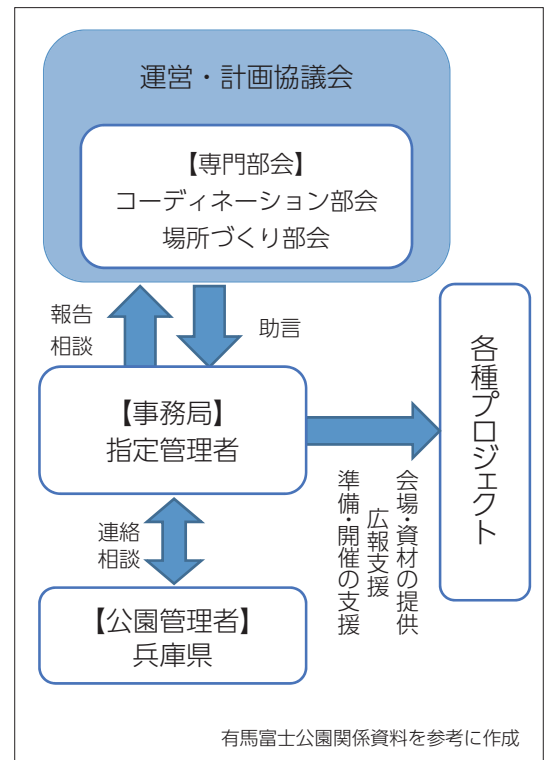
様々な担い手による公園の整備・管理・運営を行うためには、利用者の声などを受け止めたり、それぞれの担い手が知恵を出し合っていく場が必要となる。

新宿中央公園が、より地域に愛され、誇りを持てる公園となるよう、地域住民や事業者などとの意見交換を行う場を設けるなど、様々な関係者と連携して公園づくりを進めていく仕組みをつくっていく。

【例1】南池袋公園（豊島区）



【例2】有馬富士公園（兵庫県）





3 民間活力導入による施設整備や管理・運営を進める

公園の魅力を高めるためには、公園の維持管理や提供するサービスをより多様で質の高いものにしていく必要があり、それを実現していくためには、今後、民間活力をいかに活用していくかがポイントとなる。

平成29年度の都市公園法の改正において、都市公園内で飲食店・売店等の設置を行う民間事業者を公募するしくみなどが定められた。このようなしくみの活用も視野に、従来の公園施設に比べて魅力的で質の高いサービスを提供するカフェ・レストランなどの「交流拠点施設」を設置し、来園者が楽しみ、交流できる拠点としていく。また、企業や地域住民によるイベントを促進し、賑わいの創出や地域との連携を高めていく。

更に、公園施設におけるネーミングライツ（命名権）など、民間資金を活用して、質の高い施設管理を行う手法の導入も図っていく。

単なる店舗運営にとどまらず、公園の健全化や安心・安全な街づくりの発想を持ち、豊島区と連携しながら地域貢献やイベントの企画運営にも積極的に取り組んでもらえる出店者を選定する。

豊島区立南池袋公園カフェ・レストラン設置
管理運営業務事業者募集要項（豊島区）（抜粋）



カフェ・レストランのイメージ（南池袋公園）



4号街路におけるイベントとの連携



スポーツイベントの開催

4 運営を通して、人の温もりを感じられる公園にする

現在、指定管理者による清掃・警備などのきめ細かな対応が、利用者にも好評価を得ている。

よって、公園を訪れた人に対する利用案内の充実を図るとともに、みどり・生き物の解説等をその場で聞ける・参加できる「しかけ」を取り入れることにより、人とのふれあい、温かみを感じられる場所にしていく。



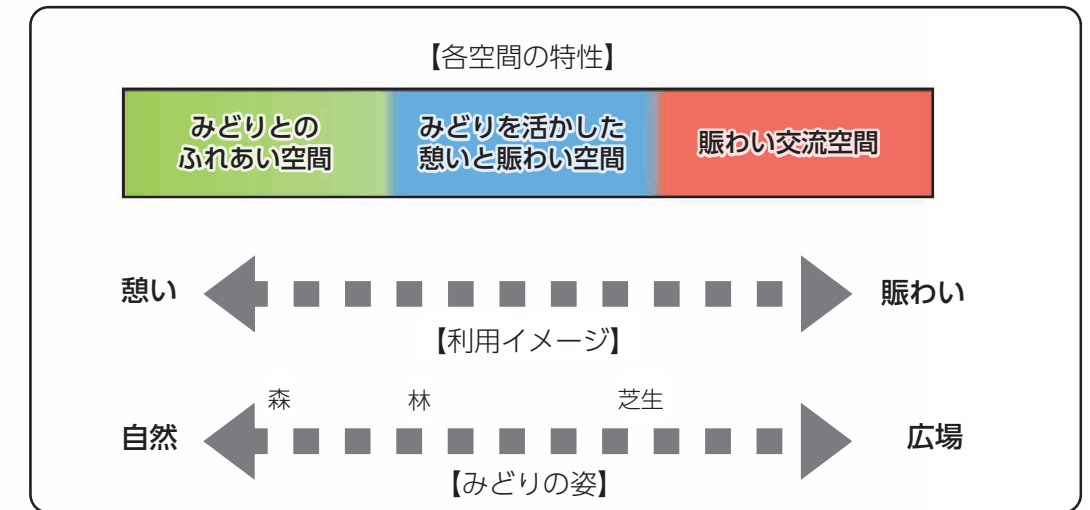
生き物の観察

3 将来像の実現に向けた公園の空間構成



《公園に新たな魅力を生み出す3つの空間》

様々な利用ニーズへの対応や多彩なみどりを創出するため、新宿中央公園を「賑わい交流空間」「みどりを活かした憩いと賑わい空間」「みどりとふれあい空間」の3つの空間にわけ、それぞれの空間の特性に応じた施設整備や管理運営を展開していくこととする。



《凡例》

	賑わい交流空間	様々なイベントや活動を通して、西新宿地区の賑わいと交流の拠点となる空間
	みどりを活かした憩いと賑わい空間	多彩なみどりを活かしながら、「憩い」から「賑わい」まで様々な利用が楽しめる空間
	みどりとふれあい空間	周辺のみどりと一体となって、自然豊かなみどりを満喫できる空間
	主要なエントランス	まちに顔を開いた公園の玄関口
	公園への主なアクセス動線	
	公園内動線	

	住宅系土地利用		駅前広場
	業務系土地利用		再開発事業(事業中)
	新宿駅直近地区		再開発事業(準備組合)
			主要道路

4 空間別展開イメージ

(1) 取り組み展開にあたっての視点

空間別展開イメージは、新宿中央公園の空間ごとの取り組みの展開例を示したものである。

具体的な取り組みの展開にあたっては、「将来像の実現に向けた基本的な考え方」と「将来像の実現に向けた公園の空間構成」を踏まえ、新宿中央公園の将来像の実現に向けて、下記の3つの視点で公園の魅力づくりに取り組んでいくこととする。

魅力づくりのための3つの視点

西新宿ならではの「魅力」を活かす

商業施設やオフィスが集積し、多くの人々が訪れるエリアであり、また、超高層ビルが立ち並ぶ魅力的な都市景観も有している西新宿のまちの特長を活かした公園空間づくりを進め、公園の魅力向上を図っていく。

地域の公園としての「魅力」を高める

新宿区立公園最大の面積を有する新宿中央公園は、多くの地域住民に日常的に利用され親しまれている「地域に身近な公園」でもある。こうした役割をより充実させることで、地域の公園としての魅力を高めていく。

民の力を活用して「魅力」を創る

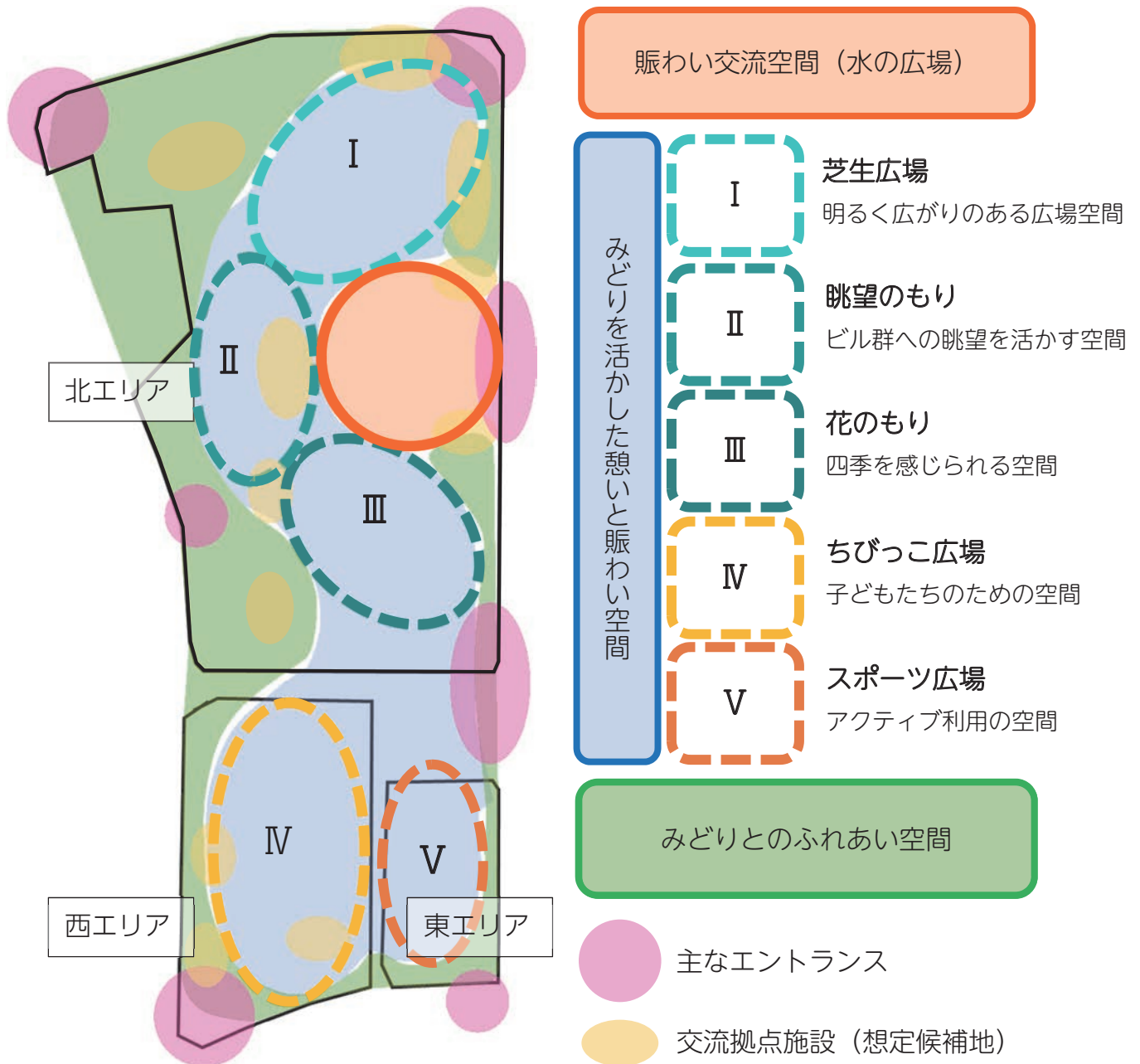
民間事業者のアイデア、ノウハウ、資金を活用するなど、公民連携を推進して、公園利用者に質の高いサービスを提供することで、これまでの新宿中央公園にはなかった新たな魅力をつくっていく。



(2) 空間ごとの取り組みの展開例

各取り組みは、「魅力づくりのための3つの視点」のもと、下記に示したそれぞれの空間ごとに、その特長を活かして展開を図っていく。なお、「みどりを活かした憩いと賑わい空間」については、現在の利用状況や場所の特性などを踏まえて、空間内を5つのブロックに分け、事業に取り組んでいくものとする。

各取り組みのうち、**重点** で示したものは、「重点的な取り組み」であり、事業効果などを勘案して選択しており、早期の実現を目指す取り組みの候補とする。



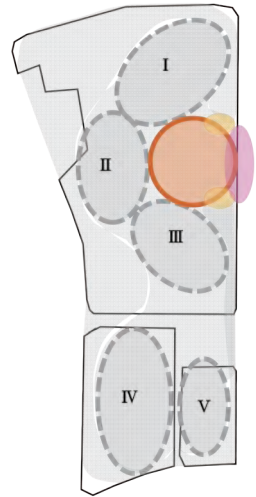
空間及び空間内の各ブロックの配置図

賑わい交流空間（水の広場）

— 様々なイベントや活動を通して、

西新宿地区の賑わいと交流の拠点となる空間 —

- ◆ 新宿駅西口から伸びる「賑わい交流軸（4号街路）」を受け止める位置にあり、アイストップとなる空間である。
- ◆ 地域のお祭りやラジオ体操といった利用の継続を図りつつ、賑わいと交流の核となる、まちのシンボルとしての活用を図っていく。



1 来園しやすさの向上

- 新宿駅方向（4号街路）から公園に容易に行けるように、横断歩道の設置などアプローチの改善を図る。 **重点**
- まちと公園とを一体的に楽しめるよう、周辺道路と公園のデザインに統一感を持たせるなどの取り組みを進めていく。
- イベントに対応した施設の整備や空間デザインを進めていくとともに、日常的な利用も楽しめる広場となるような空間づくりを行う。
- イベント等の公園情報の周知方法を工夫して、公園に人を呼び込めるようにする。 **重点**



4号街路からの公園へのアクセスの改善

2 魅力あるイベントの誘致

- イベント等の開催に必要な施設の整備や、占用基準等の見直しを行う。 **重点**
- まちや指定管理者と連携を図り、西新宿ならではのロケーションを活かした多様なイベントを実施できるように進めていく。 **重点**
- イベント時等の利便性を高めるため、水の広場に新たなトイレを整備する。 **重点**



「水と緑のイブニングバー」でのシアターイベント

3 交流拠点施設の設置

- 民間活力を活用した、交流拠点施設整備の候補地とする。

4 周辺への賑わいの波及

- 水の広場と周辺エリアをつなぐ法面の再整備（植栽の整理、勾配の緩斜面化等）を行い、周辺エリアとの連続性や一体感を創出し、周辺への賑わいの波及を図っていく。

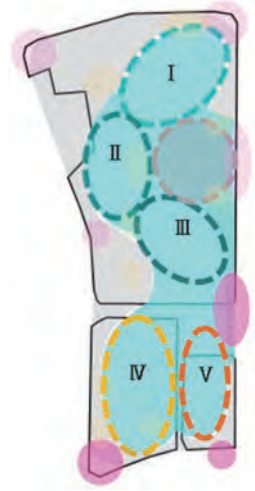


みどりを活かした憩いと賑わい空間

— 多彩なみどりを活かしながら、
「憩い」から「賑わい」まで様々な利用が楽しめる空間 —

- ◆ それぞれのブロックの特長を活かした多彩な「みどり」の空間をつくり、多様な活用を図っていく。
- ◆ 魅力ある多彩な空間を連続的に配置することで、公園の骨格となる「軸」をつくり、人の流れを生み出して、園内に回遊性を創出する。

※〔〕内は、各取り組みの実施を想定している主なブロック



1 多彩なみどりを活かした魅力あふれる空間づくり

- 芝生広場を取り囲んでいる柵を取り払い、開放的な空間とするとともに、芝生の再生を図り、高層ビル群を眺めながらくつろぐことのできる広場とし、年間を通して様々な活用ができるようにしていく。〔I〕 **重点**



芝生広場の整備イメージ

- みどりに囲まれた空間としての魅力を活かしたイベントの誘致を図る。〔I〕 **重点**
- 四季を感じることができるよう、タカトオコヒガンザクラなどを生かしつつ、季節ごとに花が咲く空間を整備していく。〔II/III〕 **重点**
- 「花の名所」となるようなフラワーガーデンを整備する。なお、実施に当たっては、民間活力の活用も検討していく。〔I/III〕 **重点**
- 夜も魅力的な公園となるよう、樹木のライトアップなどを行っていく。〔I/II/III〕



新宿中央公園のタカトオコヒガンザクラ

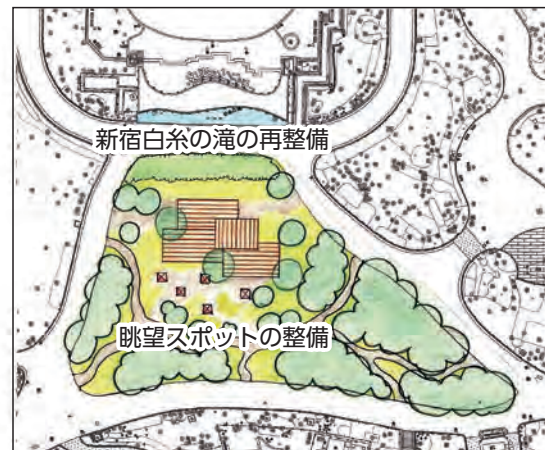
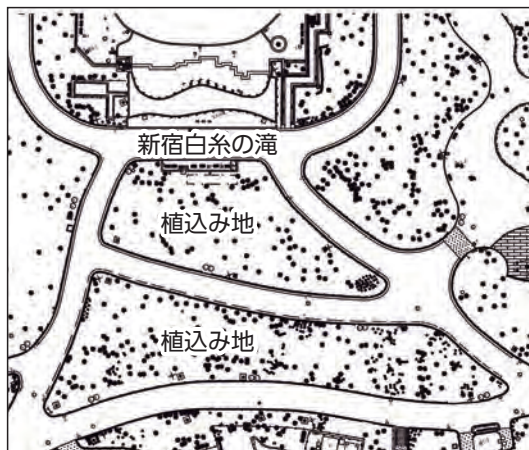
- みどりの中で、西新宿ならではの眺望が楽しめる魅力ある空間を創出する。また、新宿白糸の滝については、眺望スポットにふさわしいデザインに再整備する。〔Ⅱ〕 **重点**



新宿白糸の滝側の植込み地から見た現在の眺望



眺望のモリの整備イメージ



眺望のモリのイメージ平面図

(空間を集約化し、みどりを活かした眺望スポットとして整備)

2 ちびっこ広場の充実

- 子どもたちに人気の高い大型複合遊具を設置する。〔Ⅳ〕 **重点**
- ちびっこ広場が、子どもにとって、いつも安全で安心な遊び空間であるよう、遊戯施設の計画的な改修を進めていく。〔Ⅳ〕 **重点**
- 乳幼児が遊びやすくなるよう、遊具への配慮や安全性を高める工夫を行う。また、授乳やオムツ交換がしやすいよう、設備の改良を行う。〔Ⅳ〕 **重点**
- 自然の中での遊び体験ができるよう、自然とふれあう遊び空間づくりを行う。〔Ⅳ〕



乳幼児用遊び場等の整備イメージ



3 交流拠点施設の設置

- 居住者・就業者・来街者に、みどりを楽しみながら憩い・交流してもらえるよう、民間活力を導入したカフェ・レストランなどの施設整備を進めていく。まずは「Ⅰ」を優先候補地として、検討を行う。〔Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ/Ⅳ〕 **重点**



4 まちの記憶の継承

- 次世代に新宿中央公園の記憶を継承するため、地域の歴史を物語る六角堂や公園開園当時の公園施設を保存し、有効活用を図っていく。〔Ⅲ/Ⅳ〕

カフェ・レストランのイメージ(隅田公園)

5 多様な活動の受け入れ

- 居住者・就業者・来街者がお互いに交流できるような、プログラム（花植え、ヨガ教室など）を促進していく。〔Ⅰ/Ⅲ〕 **重点**

6 来園しやすさの向上

- まちと新宿中央公園をつなぐ重要な空間であるエントランス（ポケットパークなど）を改善し、来園しやすさの向上を図っていく。〔Ⅰ/Ⅳ〕 **重点**



ポケットパークの整備イメージ

- 見頃の花など、公園の情報の周知方法を工夫することにより、公園に人を呼び込んでいく。 **重点**
- スポーツ広場へのアクセス改善を検討する。〔Ⅴ〕

7 公園内やまちに回遊性を創出してまち全体の魅力を向上

- みどりを活かした多彩な空間を連担させて、公園の魅力を向上させることで、人々を公園に引き寄せ、まちの回遊性を高めていく。〔Ⅰ/Ⅱ/Ⅲ〕 **重点**
- まちと公園とを一体的に楽しめるよう、周辺道路と公園のデザインに統一感を持たせるなどの取り組みを進めていく。〔Ⅰ/Ⅳ〕

8 公園施設の効果的な活用

- ジャブジャブ池を改修するなどし、オフシーズンにも活用できる場所にしていく。〔Ⅳ〕
- 公園の地下にある占用物件の大規模改修に合わせて、その上部にある施設や利用方法の見直しを行っていく。〔Ⅳ/Ⅴ〕

みどりとのかれあい空間

—周辺のみどりと一体となって、

自然豊かなみどりを満喫できる空間—

- ◆ 地域の歴史や自然を感じることでできる貴重な資産である公園のみどりについて、常緑樹や落葉樹のバランスを考慮しながら、まちのみどりと一体となった「もり」にしていく。
- ◆ 公園周辺からも、公園のみどりを楽しんでもらうとともに、人々を公園へ誘う魅力あるみどり空間としていく。



1 まちとのつながりを意識したみどりづくり

- 外周斜面の一部を花壇や季節感のある植栽などにすることで、園外からも公園を楽しむことが出来るようにする。

重点

- まちとつながるエントランス周辺の植栽などを改善し、公園への見通しをよくし、公園へ入りやすいように改善する。 **重点**



現在の公園の外周部

2 多彩なみどり空間の提供

- 樹林内に散策路を設けるなど、「西新宿」という都心においても、みどりとのかれあいが楽しめる空間づくりを行う。 **重点**
- 多様なみどりとふれあえるように、四季を通して楽しめる草花の植込み等の充実を図っていく。
- 公園開園時に記念として植栽したメタセコイヤや、江戸時代からの梅の名所であった「銀世界」に由来する梅など、まちの記憶が息づく既存のみどりを保存・活用する。
- 多彩なみどり空間をつくるため、みどりの将来像を明確化し、既存のみどりの保全や更新、整理を行う。 **重点**



四季を感じる事ができる散策路

3 公園施設の効果的な活用

- 公園管理事務所に新たな機能（教養・休養機能、子育て支援機能等）の充実を図っていく。
- エコギャラリー新宿（環境学習情報センター・区民ギャラリー）と連携し、環境教育の充実等を行う。



公園全体

—公園全体の視点または各空間共通で取り組んでいくこと—

1 みんなが楽しく利用できる公園づくり

- 公園の占用基準や利用ルールの見直しを行い、公園の使いやすさや賑わいづくりにつなげていく。 **重点**



イベントによる賑わいづくり

2 安全で安心して利用できる公園づくり

- 防犯面に配慮した環境づくりを行っていく。 **重点**
- 避難場所としての防災機能の強化を図っていく。 **重点**
- 今後策定する予定の公園施設等維持管理計画などに基づき、公園施設の計画的で効果的な維持管理や改修を実施する。 **重点**

3 公園施設や情報のユニバーサルデザイン化の推進

- 公園施設のユニバーサルデザイン化を推進していく。 **重点**
- 新宿駅周辺や西新宿地区のまちと連携し、統一感のある分かりやすい案内サインの設置を進めていく。
- 公園をより知ってもらうため、情報発信の強化を図っていく。管理者による情報発信に加え、公園利用者による情報発信を生み出すようなICTなどの仕掛けをつくっていく。 **重点**



情報発信が可能なサインの設置

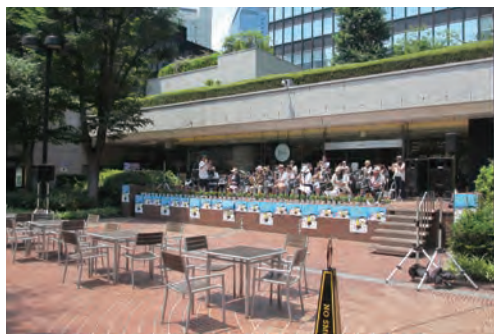
4 公園空間の拡大

- 新宿中央公園の魅力や機能の向上を図るため、公園敷地の高低差をいかした地下部分の有効活用や、公園に隣接する公共空間との一体的な利活用など、新たな公園空間の創出を検討していく。



道路と高低差のある公園敷地

- 公園周辺のオープンスペースとの連携や役割分担を図っていく。



高層ビルの公開空地



4号街路の歩道空間

5 公園施設へのネーミングライツの導入

- 公園トイレなどの公園施設にネーミングライツ（命名権）を導入し、質の高い施設管理を行う。 **重点**



新宿中央公園の主な公園トイレ

6 様々な担い手と連携した公園づくり

- 地域住民や事業者、指定管理者などと連携した「公園づくりの仕組み」をつくる。 **重点**



5 計画の実現に向けて

計画の推進に当たっては、空間別展開イメージにて示した「重点的な取り組み」の中から、西新宿のまちの魅力を活かしたり、公民連携を活用するなどして、公園の魅力づくりを効果的に進めることができる事業や、費用対効果が高いと考えられる事業などを選択して、「早期実現を目指す取り組み」と位置付け、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会も視野に入れて、実現を目指していく。また、「早期実現を目指す取り組み」以外の「重点的な取り組み」は、概ね10年後を目途に実現を目指すものとする。

なお、「重点的な取り組み」以外の取り組みについては、当面、長期的視野のもと、実現を目指していく考えであるが、今後の社会情勢等の変化を踏まえ、必要に応じて取り組みの位置付けの見直しを図ることとする。

スケジュールイメージ



新宿中央公園魅力向上推進プラン

発行年月 平成30（2018）年3月
編集発行 新宿区みどり土木部みどり公園課
新宿区歌舞伎町一丁目4番1号
電話（03）5273-3915（直通）

印刷物作成番号
2017-6-3807

本誌は森林資源の保護とリサイクルの促進のため、古紙を利用した再生紙を使用しています。

